

新型コロナウイルス感染症による ああすヘルパーの利用者からの感染死事例について

特定非営利活動法人
地域福祉会ああす
感染・災害対策委員会

ヘルパーステーションああすのSヘルパーが、2月1日新型コロナウイルス感染関連により亡くなりました。改めて生前のご活躍を偲び弔意を表明します。

【経過】

Sヘルパーは、1月14日(木)の利用者様宅にサービスに入った際に、利用者様に熱があり体調不良を発見、主治医に連絡しPCR検査を受けた。利用者は、16日(土)に陽性と診断された。

保健センターの調査により、Sヘルパーも濃厚接触者と判断、20日にPCR検査を受け、21日に陽性結果連絡を受け、22日に療養所への入所が決まったが、体調が悪化し医療機関への入院となった。

その後の経過としては、医療機関からは家族にも「何かあった時」に連絡するのみで詳細はわからなかったが、新型コロナウイルス感染症については回復に向かっているとのことであった。

ご主人も亡くなる前日に本人と携帯で話すことができ、元気だったが、2月1日病状が急変したことの連絡を受け、家族が駆け付け看取りとなった。

死因は心臓に血栓がたまったことが原因で、コロナ入院によるストレスによるものと説明を受けた。(利用者様は、陽性確定後そのまま入院となり26日に軽快退院している。)

【感染要因】

地域福祉会ああすでは、昨年春の段階から一連の自己防護策について行政の指示に基づいて注意喚起をし、マスク配布(当時は不織布マスク品切れのため布マスク)や携帯消毒液の支給などの徹底を行い、各事業所の、消毒・換気、飛沫防止にも取り組んできた。秋以降の第3波の際には、行政の指示により、1利用者1マスクを徹底するよう、マスクをまず1箱、全てのヘルパーに支給するなど、対策を講じてきました。

しかし、Sヘルパーは再三の注意にもかかわらず、しばし、あごマスク状態になっており、14日当日も駆け付けた診療所の看護師さんによると「マスク非着用」状態であったと報告を受けている。

【教訓と対策】

マスクの正しい着用をこのヘルパー死亡事例を通して、再度徹底と指導を行います。

当該事業所では、少なからず職員の動揺もあり、民医連の「新型コロナウイルス感染症に関する職員のヘルスケア指針」をもとに、メンタルへするにも十分に配慮し、振り返る機会を作るようにします。